

平成26年度
「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン
助成活動報告



平成27年3月31日
NPO法人北海道遺産協議会

平成26年度「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン 助成先一覧(計5件)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	摩周湖	弟子屈町	弟子屈町地域公共交通活性化協議会	摩周湖・屈斜路湖環境にやさしい周遊観光 BDFバスとレンタサイクルの交通モード・ミックス事業	300,000
2	京極ふきだし公園	京極町	株式会社ファウンド	自然の循環と北海道遺産を学ぶ	250,000
3	螺湾(らわん)ブキ	足寄町	NPO法人あしよろ観光協会	螺湾ブキ自生地環境整備活動	350,000
4	野付半島と打瀬舟	別海町	野付半島ネイチャークラブ	ラムサール条約登録湿地9周年記念イベント 「晩秋の自然を楽しむ音楽と語り」	50,000
5	石狩川	石狩市	石狩浜海浜植物保護センター	(仮称)石狩の環境資源マップづくり	350,000

1. 摩周湖・屈斜路湖環境にやさしい周遊観光 BDFバスとレンタサイクルの交通モード・ミックス事業

- 実施主体：弟子屈町地域公共交通活性化協議会（弟子屈町）
- 実施団体URL：<http://www.eco-passport.net/>
（弟子屈エコパスポートHP）
- 助成額：300,000円

一活動内容一

・行政、経済団体、運送事業者との協働により地域公共交通の取り組みを推進しているが、この取組の最大の特徴は「環境」と「観光」と「地域社会」の共生且つ北海道遺産の摩周湖への環境影響の低減を最大の目的としていることから運行バス車両には100%BDFを使用してきた。

・しかし発着・停車拠点であるJR各駅観光案内所さらには道の駅から移動する手段を確保する必要性が高く、環境に配慮した交通モードとして自転車が最適であり、レンタサイクルを整備して環境配慮行動の推進とともに北海道遺産事業の普及啓発を図るものとする。



遺産の名称：
「摩周湖」（弟子屈町）



阿寒国立公園の原始の自然に囲まれた「神秘の湖」は世界有数の透明度と美しい乳白色の霧の風景で知られている。摩周湖には流入河川も排水河川もないが水位は一定している。その景観は、北海道の湖沼と山岳の複合景観として最も代表的なもの。摩周湖および周辺環境の保全に向けた「摩周湖宣言」に集約される地域住民の取り組みは高く評価されている。

2. 自然の循環と北海道遺産を学ぶ

- 実施主体：株式会社ファウンド（札幌市）
- 実施団体URL：<http://found-inc.jp/>
- 助成額：250,000円

—活動内容—

- ・京極ふきだし公園集合で地元小学生4年生～6年生30名を対象に、湧水がどのような循環を経て現在湧き出ているのかを体験メニューを絡めて理解を深めてもらいました。
- ・午前30分程の座学後、水と森の関係についてふきだし公園内でフィールドワーク。公園内を清掃して昼食。
- ・午後から湧水を辿って尻別川で川下り。湧水と川の関係について川岸に上がって説明。湧水の環境を守るということは、関わっている全ての環境に気を配ることに繋がるという理論について、体験を通して理解を促しました。
- ・北海道遺産を通じて、身近にある自然環境に配慮出来る思考の基礎を作ることを目的としました。尚、プログラムの運営につきましては京極町と連携して行いました。



遺産の名称：
「京極のふきだし湧水」
（京極町）



蝦夷富士「羊蹄山」に降った雨や雪解け水が濾過され、地中のミネラルを加えながら数十年の長い時間を経て流れ出る恵みの湧水。「京極のふきだし湧水」は国内最大級のもので、1日の湧水量は8万トン、30万人の生活水に匹敵する。1985年、環境庁の「名水百選」にも選ばれ、この自然が与えてくれたおいしい水を求めて訪れる人が絶えない。

3. 螺湾ブキ自生地環境整備活動

- 実施主体：NPO法人あしよろ観光協会（足寄町）
- 実施団体URL：<http://www.ashoro-kanko.jp/>
- 助成額：350,000円

—活動内容—

- ・自然の螺湾ブキを多くに皆様に体験していただくために螺湾ブキ鑑賞ほ場（足寄町上足寄）を設定しています。
- ・鑑賞ほ場は、自生地を保全するために、歩道と自生地を分ける木柵や木橋を設置しています。毎年補修を行っています。経年の劣化により柵の一部が傾いていたり、痛みが目立つようになってきました。
- ・そこで、来場者の皆様に安全安心に北海道遺産の螺湾ブキをご覧頂くとともに、自生地の踏み荒らしや採取の防止の為、木柵等の補修を行いました。



遺産の名称：
「螺湾ブキ」（足寄町）



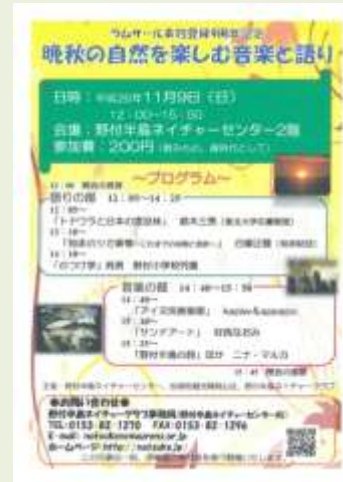
足寄町の螺湾川に沿って自生する螺湾ブキは高さ2～3mに達する巨大なフキ。かつては高さ4mに及び、その下を馬に乗って通ることができたというが、なぜ大きくなるのかはいまだに謎が多い。また、自生ブキの他にも、農業者が農産物として栽培ブキの生産を行っている。地元では産学官が一体となった商品開発も進めており、足寄町オリジナルのブランドとして知名度を高めている。

4. ラムサール条約登録湿地9周年記念イベント 「晩秋の自然を楽しむ音楽と語り」

- 実施主体：野付半島ネイチャークラブ（別海町）
- 実施団体URL：<http://www.aurens.or.jp/~todowara/>
- 助成額：50,000円

—活動内容—

- ・野付半島が2005年にラムサール条約の登録湿地となってから、毎年記念イベント「晩秋の自然を楽しむ音楽と語り」を開催しています。
- ・様々な分野から講師を招いて動植物や地形など野付半島に関わる講演とミニコンサートを開き、音楽と語りを通して参加者に野付半島の魅力を感じてもらおう恒例のイベントとなっています。
- ・今年は60名を超えるお客様にご来場いただき、盛況のうちに終わることができました。



遺産の名称：
「野付半島と打瀬舟」
(別海町、標津町)



全長26kmの日本最大の砂嘴(さし)で、擦文時代の竪穴式住居も見られる。江戸時代には国後へ渡る要所として通行屋が設けられ、北方警備の武士も駐在しました。ドワラ、ナラワラの特異な景観や、春と秋に野付湾に浮かぶ打瀬舟の風景が多くの人々をひきつけている。北海シマエビ漁に用いられる打瀬舟は野付湾の風物詩として知られ、霧にかすむ舟影は幻想的。



北海道遺産
Hokkaido Heritage

5. 石狩の環境資源マップづくり

■ 実施主体：石狩浜海浜植物保護センター（石狩市）

■ 実施団体URL：

<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/>

■ 助成額：350,000円

ー活動内容ー

■背景・目的

石狩市は、石狩川が流れ込む河口の街です。河口部には広大な砂丘が形成されており、砂上は、市の花でもあるハマナスをはじめ、豊かな海浜植物群落が広がる草原となっており、現在では全国的にも希少な自然海岸となっています。豊かな自然環境を紹介するとともに、それらが育む人々の営みを紹介し、人と自然との繋がりを意識した保全活動の推進に寄与することを目的とします。

■内容

・本事業では、自然の紹介のみならず歴史や文化など、多様な視点から石狩川を捉え、人と自然との繋がりを意識したパンフレットを製作します。

・パンフレットは、市内小中学校における教材としての活用や、自然環境保全の啓発のため、市内外の関係機関へ広く配布する予定です。

■事業実施による効果

自然環境の保全には、その土地を多角的な視点から捉え理解することが肝要であり、本パンフレットはその理解の一助になることが期待されます。また、市民と協働でパンフレットを製作することから、その過程を通じて市民自らが自然環境保全の意識を高めるとともに、地域理解を深めました。



遺産の名称：

「石狩川」

（流域市町村）



大雪山系を源とし、上川、空知、石狩の大平野を形成して日本海に注ぐ大河川。北海道開拓の歴史の中で、度重なる洪水と闘いながらも、交通・物資輸送の道として大きな役割を担い、また、鮭漁など北海道の歴史と文化が刻み込まれている母なる川。石狩川の地引き網漁は江戸時代に始まり、昭和期には遠方からも多くの見物客が訪れたほどである。